

ヘッケル放散虫コレクションの調査と再検討

相田吉昭*・鈴木紀毅**・大金 薫**・酒井豊三郎*・谷村好洋***

* 宇都宮大学農学部地質学研究室・** 東北大学大学院理学研究科・*** 国立科学博物館地学研究部

Study and reexamination of the Ernst Haeckel Radiolaria Collection

Yoshiaki Aita*, Noritoshi Suzuki**, Kaoru Ogane**, Toyosaburo Sakai* and Yoshihiro Tanimura***

*Geology Department, Faculty of Agriculture, Utsunomiya University, Mine 350, Utsunomiya 321-8505, Japan (aida@cc.utsunomiya-u.ac.jp, toyo.s.sakai@nifty.ne.jp); **Institute of Geology & Paleontology, Graduate School of Science, Tohoku University, 6-3 Aoba Aramaki, Aoba-ku, Sendai 980-8578, Japan (suzuki.noritoshi@nifty.com, ogane@dges.tohoku.ac.jp); ***National Museum of Nature and Science, Tokyo, Japan (tanimura@kahaku.go.jp)

Key words: Ernst Haeckel, Radiolaria, Natural History Museum, London, Challenger Station, teaching slide, bipolar distribution

ヘッケル放散虫コレクションは、ロンドン自然史博物館 (NHM) の微古生物学部門で保管・管理されている放散虫スライド標本類である (図1~2)。最近、これらの標本類から放散虫種の新たなタイプを選定するために、その基礎となる標本類の予備調査が2004~2005年に行われ、コレクションの基礎的情報 (目録, 数量, 所在地) や各スライドから得られる放散虫個体の電子画像のデータベース化が進められた。その成果の一部として、標本情報が Tanimura *et al.* (2006) により報告されている。それを利用する事により、誰でも観察しようとするスライド標本にすぐにアクセスすることが可能となっている。このヘッケル・コレクションは、エーレンベルク・コレクションと並んで世界でも重要な微化石コレクションの1つとなっており、その中身は大きく2つに分けられる。1つはヘッケル自身が作成した34枚の教育用放散虫スライドセットであり (図1)、もう1つはプランクトン・ネット試料から作られた多数の現生放散虫スライドである (図2)。教育用セットは、世界中の海洋から採取された現生プランクトン標本 (Nr. 6: 図3~4) や HMS チャレンジャー号

が採集したプランクトン・ネット試料や底質の放散虫・珪藻軟泥 (Nr. 31: 図5~6) そしてバルバドス島の放散虫土から作成されたスライドで構成されており、保存良好な放散虫を含む。後者にはチャレンジャー号のプランクトン試料から船上で直接、あるいは後にヘッケル自身が作成した、染色されたプランクトンスライドを多数含んでいる。我々はチャレンジャー号が各ステーションから採取したオリジナルの底質試料 (図7) を研究用に配分してもらい、微化石処理を行って、新たな放散虫スライドを作成して研究を進めている。ここでは南極海域の Station 157 から産出する両極性と単極性分布を示す放散虫を示す (図8)。

文献

Tanimura, Y., Tsuji, A., Sakai, T., Aita, Y., Suzuki, N., Ogane, K., Young, J., Williams, D. M., Lazarus, D., Breidbach, O. and Bach, T., 2006. Joint Haeckel and Ehrenberg Project - A taxonomic reexamination of the Haeckel and Ehrenberg microfossil collections as a historical and scientific legacy. *Research Report of the Museum Director General's Support Program in 2004 - 2006*, 1-24, The National Science Museum, Tokyo.



図1. ヘッケル放散虫コレクション。教育用スライドは34枚で1セットを構成する。キャビネット78。ロンドン自然史博物館, 古生物部門。



図2. プランクトン放散虫コレクション。H.M.S. チャレンジャー号が南太平洋の調査観測地点のプランクトン・ネット試料より作成。キャビネット103。

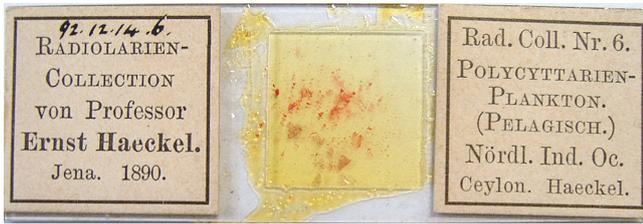


図3. ヘッケル放射虫コレクション. 教育用スライド Nr. 6. 北インド洋現世プランクトン. (エルンスト・ヘッケル採集・作成).

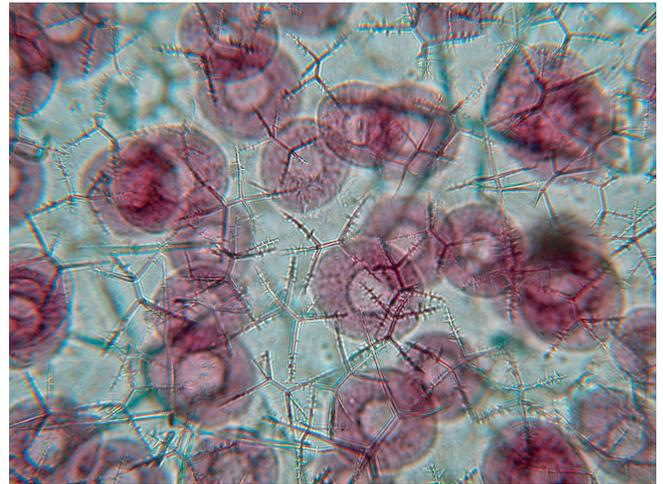


図4. 教育用スライド Nr. 6 (左) 中に認められる群体性放射虫 *Sphaerozoum* sp.



図5. ヘッケル放射虫コレクション. 教育用スライド Nr. 31. チャレンジャー Station 157. (南極海域の底質試料である珪藻軟泥からエルンスト・ヘッケル作成)

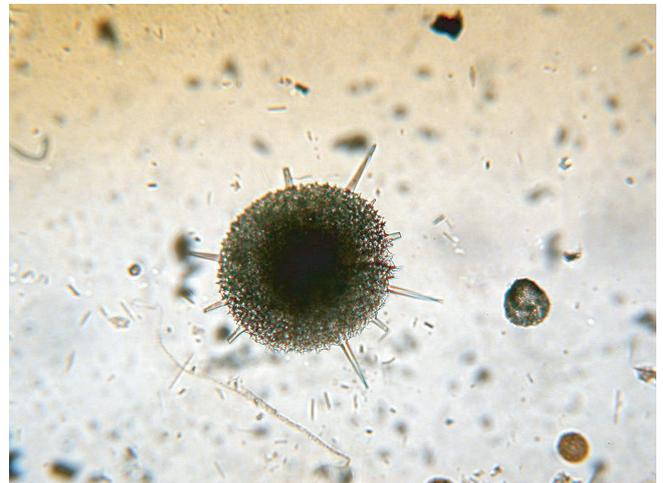


図6. 教育用スライド Nr. 31 (左) 中に認められる放射虫 *Spongotrochus glacialis* (チャレンジャー Station 157)

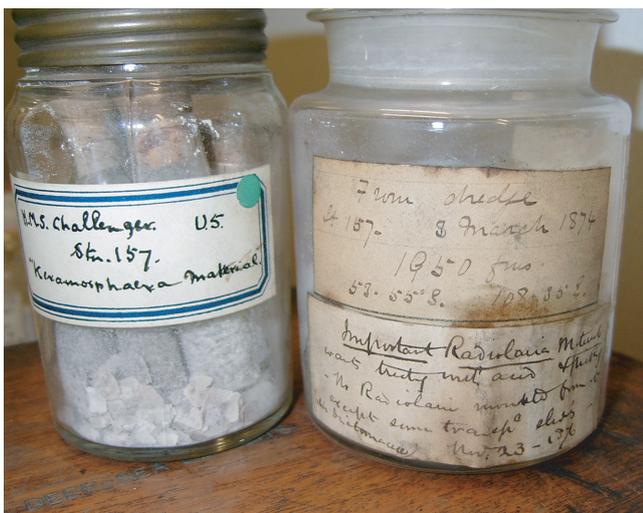


図7. ロンドン自然史博物館古生物部門に保管されているチャレンジャー Station 157 試料. 未処理のオリジナルな珪藻軟泥試料であり, 今回微化石処理を新たに行い, 放射虫スライドを作成して共同研究を進めている.

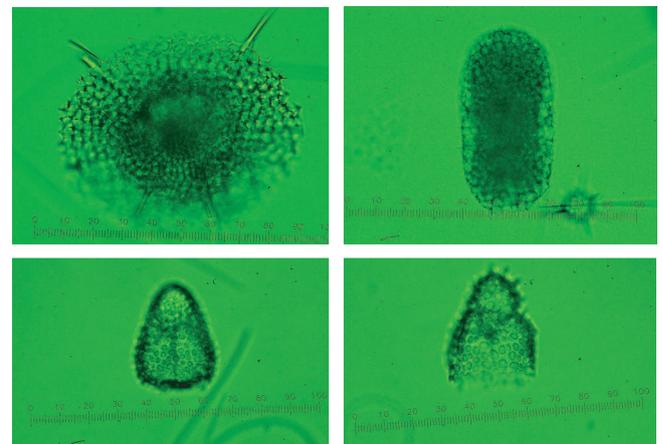


図8. Station 157 から新たに作成されたスライドから産出する放射虫. 上は両極性放射虫, 下は単極性放射虫種. 上左. *Spongotrochus glacialis*, 上右. *Spongurus polymaticus*, 下左. *Antarcticissa denticulata*, 下右. *Antarcticissa strelkovi*.